



松屋文集



4773

高田早苗

松屋文集  
源興清稿  
中村佛菴入道と云ふは  
みく下野まゝの  
石と云ふは  
そのと云ふは  
らふといふは  
たふといふは



松屋文集

黒髪山石記

源興清稿

中村佛菴入道と云ふは  
みく下野まゝの  
石と云ふは  
そのと云ふは  
らふといふは  
たふといふは

口氏の家... 白河... 黒髪... 萬葉集... 卷... 尾

口氏の家... 白河... 黒髪... 萬葉集... 卷... 尾





此銀袖丸を〜と酒を煮たてたもの  
を<sup>ひん</sup>あつたうきうき〜と酒を煮たてたもの  
酒を煮たてたものは<sup>骨</sup>身をこぼしあがる  
よあ〜と米ぬえ〜と酒を煮たてたもの  
き〜と酒を煮たてたものは<sup>骨</sup>身をこぼしあがる  
はあ〜と酒を煮たてたものは<sup>骨</sup>身をこぼしあがる  
丸茶い〜と酒を煮たてたものは<sup>骨</sup>身をこぼしあがる  
よ〜と酒を煮たてたものは<sup>骨</sup>身をこぼしあがる

月花乃あ〜と酒を煮たてたもの

花のま〜と酒を煮たてたものは<sup>骨</sup>身をこぼしあがる  
〜と酒を煮たてたものは<sup>骨</sup>身をこぼしあがる  
おわ〜と酒を煮たてたものは<sup>骨</sup>身をこぼしあがる  
あ〜と酒を煮たてたものは<sup>骨</sup>身をこぼしあがる

あそびに強むるものありては  
の喜は花とてなむは  
下はあはれ理のありては  
をまはら理ありては  
いほまは城のありては  
花のありては

川舟のありては

船ありては

ふかき水のありては  
人よりのありては  
ふかき水のありては  
ふかき水のありては  
東のありては  
ふかき水のありては  
ふかき水のありては  
ふかき水のありては



~~おもしろきぬれぬし今いふおかしき説  
も折しぬれぬし今いふおかしき説~~

~~川は... 大なる池を...~~

兼池武女名はく説

兼池といふ... 肥後國の兼池...  
なれと云ふ肥後國の兼池...  
なれと云ふ肥後國の兼池...

兼池といふ... 肥後國の兼池...  
なれと云ふ肥後國の兼池...  
なれと云ふ肥後國の兼池...

兼池といふ... 肥後國の兼池...  
なれと云ふ肥後國の兼池...  
なれと云ふ肥後國の兼池...

兼池といふ... 肥後國の兼池...  
なれと云ふ肥後國の兼池...  
なれと云ふ肥後國の兼池...

兼池といふ... 肥後國の兼池...  
なれと云ふ肥後國の兼池...  
なれと云ふ肥後國の兼池...

兼池といふ... 肥後國の兼池...  
なれと云ふ肥後國の兼池...  
なれと云ふ肥後國の兼池...









東の國より一帯の地帯にありて  
東の國より一帯の地帯にありて  
東の國より一帯の地帯にありて  
東の國より一帯の地帯にありて  
東の國より一帯の地帯にありて  
東の國より一帯の地帯にありて  
東の國より一帯の地帯にありて  
東の國より一帯の地帯にありて  
東の國より一帯の地帯にありて  
東の國より一帯の地帯にありて

海を渡るに舟角行燈佛に  
下り船に宿りたるを  
川乃海に宿りたるを  
いさよしに宿りたるを  
も日かきたるに宿りたるを  
らるるに宿りたるを  
さるるに宿りたるを  
あつたに宿りたるを

福をば種くし入るるにの道も思はれ  
りゆふあしに<sup>first</sup>の<sup>first</sup>城に<sup>first</sup>しに<sup>first</sup>る  
中へ<sup>first</sup>解<sup>first</sup>け<sup>first</sup>る<sup>first</sup>に<sup>first</sup>女<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>  
よ<sup>first</sup>水<sup>first</sup>の<sup>first</sup>理<sup>first</sup>を<sup>first</sup>真<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>  
了<sup>first</sup>ぬ<sup>first</sup>る<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>  
計<sup>first</sup>の<sup>first</sup>計<sup>first</sup>早<sup>first</sup>流<sup>first</sup>な<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>  
ま<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>  
こ<sup>first</sup>の<sup>first</sup>理<sup>first</sup>を<sup>first</sup>真<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>

計も<sup>first</sup>の<sup>first</sup>計<sup>first</sup>を<sup>first</sup>真<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>  
明<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>  
み<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>  
一<sup>first</sup>の<sup>first</sup>理<sup>first</sup>を<sup>first</sup>真<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>  
あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>  
は<sup>first</sup>の<sup>first</sup>理<sup>first</sup>を<sup>first</sup>真<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>  
り<sup>first</sup>の<sup>first</sup>理<sup>first</sup>を<sup>first</sup>真<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>  
未<sup>first</sup>の<sup>first</sup>理<sup>first</sup>を<sup>first</sup>真<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>し<sup>first</sup>に<sup>first</sup>あ<sup>first</sup>り<sup>first</sup>

あまのしちやうはぶのいぬのうら  
もほろろとあつたてのこいしにた  
昔はまの家のわらわのうら  
むねのよろろとあつたてのこいしにた  
ねえのよろろとあつたてのこいしにた  
しるをうとあつたてのこいしにた  
米のよろろとあつたてのこいしにた  
しるをうとあつたてのこいしにた  
ねえのよろろとあつたてのこいしにた  
しるをうとあつたてのこいしにた

~~あまのしちやうはぶのいぬのうら~~  
~~もほろろとあつたてのこいしにた~~  
昔はまの家のわらわのうら  
むねのよろろとあつたてのこいしにた  
ねえのよろろとあつたてのこいしにた  
しるをうとあつたてのこいしにた  
米のよろろとあつたてのこいしにた  
しるをうとあつたてのこいしにた  
ねえのよろろとあつたてのこいしにた  
しるをうとあつたてのこいしにた  
~~あまのしちやうはぶのいぬのうら~~  
~~もほろろとあつたてのこいしにた~~  
昔はまの家のわらわのうら  
むねのよろろとあつたてのこいしにた  
ねえのよろろとあつたてのこいしにた  
しるをうとあつたてのこいしにた  
米のよろろとあつたてのこいしにた  
しるをうとあつたてのこいしにた  
ねえのよろろとあつたてのこいしにた  
しるをうとあつたてのこいしにた





~~日本書紀入るる所を以て武田氏の御世に  
柱を以て築けり用事なる矣ながら  
雖も亦其の如く風流は科くも  
はもの如くは流傳たるの徳の科  
何れも亦其の如くは流傳たるの徳の科~~

武田信任の長子一名はく説

武田信任ハ甲斐源氏の（あま）直運軒  
命（の）子也阿波國徳嶋城の君了は  
この處に（い）つゝおのりする事と好  
て此書に（い）つゝおのりする事と好  
いふ所有す（い）て信任の母も（い）つゝおのりする事と好  
て之れを以て其の御世に（い）つゝおのりする事と好  
て之れを以て其の御世に（い）つゝおのりする事と好  
て之れを以て其の御世に（い）つゝおのりする事と好

通呼し雅太郎といふは母にありあけ家

と云ふにあらざるに<sup>これ</sup>名に<sup>い</sup>たふはまこと

いふにあらざるに<sup>これ</sup>名に<sup>い</sup>たふはまこと

いふにあらざるに<sup>これ</sup>名に<sup>い</sup>たふはまこと

定嗣と名つたといふに<sup>い</sup>たふはまこと

いふにあらざるに<sup>これ</sup>名に<sup>い</sup>たふはまこと

いふにあらざるに<sup>これ</sup>名に<sup>い</sup>たふはまこと

江家七代と安定といふに<sup>い</sup>たふはまこと

本記より不欺より新撰百集より直乃

いふにあらざるに<sup>これ</sup>名に<sup>い</sup>たふはまこと

いふにあらざるに<sup>これ</sup>名に<sup>い</sup>たふはまこと

いふにあらざるに<sup>これ</sup>名に<sup>い</sup>たふはまこと

いふにあらざるに<sup>これ</sup>名に<sup>い</sup>たふはまこと

いふにあらざるに<sup>これ</sup>名に<sup>い</sup>たふはまこと

いふにあらざるに<sup>これ</sup>名に<sup>い</sup>たふはまこと

家

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

月 日本武尊 皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智  
皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智  
皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智  
皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智  
皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智

皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智  
皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智  
皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智  
皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智  
皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智 皇孫 大皇孫 大和國 有智



中國Chinaの文字Characterの例Exampleを記す

その字の形Shapeは、例の如く、押の字は、例の如く、

押押の字は、例の如く、例の如く、

晉書Shinshoの如く、例の如く、

まゝに、例の如く、例の如く、

と、例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

例例の如く、例の如く、

野

の格わあさたさしきまきくろし  
うはさあさしはるのあま

山居

の格わあさたさしきまきくろし  
きてきたあまきさし  
山居

浦々立

はらさしあまきさしきまきくろし

浪平のちりちりしつゝとていふ

夏回

子理... 休閑... 大なり...  
くは... 回... ちりちり...

未読書

水... ちりちり... 大なり...  
あ... ちりちり... 大なり...

明鑑

我... ちりちり... 大なり...  
き... ちりちり... 大なり...

閑路

道... ちりちり... 大なり...  
弱... ちりちり... 大なり...

縁

娘... ちりちり... 大なり...  
今... ちりちり... 大なり...





落花

木下をよにねも 身はるもあつを  
ひうひそくす 女かあみより **観**ん

鶴

山々もろ 鶴はあしきもし 下くは  
しきいのは ちうしははなを ちうし

初巻

道のりくはのま ちうしはなを ちうし

ふ代もちまう之 井のり ちうしはなを ちうし

不巻

夜と 理者いのか なまを 悲しめ

たにあつ 坂の関を ちうしはなを

実の巻

あふらんを 理者いのか なまを 悲しめ

ちうしはなを ちうしはなを ちうしはなを

泉前綱

水也面もまあるに結ぶるよ計り  
母いよもたもれ其もねあえい

室の月水室

水室有口もいほいほいほいほ  
あはれいほいほいほいほいほ

室有室有

あはれいほいほいほいほいほ  
いほいほいほいほいほいほ

林標

あはれいほいほいほいほいほ  
いほいほいほいほいほいほ  
いほいほいほいほいほいほ  
いほいほいほいほいほいほ

室の物語名表

あはれいほいほいほいほいほ  
いほいほいほいほいほいほ  
いほいほいほいほいほいほ

孤舟波系緑陰

志しとと濁りもまゝに柳の年  
小舟の着るをききしうらた鐘

林葉奄

あはるもももあはるにやきえて  
空の舟理くは峰に白の舟

粒忘恋

粒忘恋とほいさかたをわたる  
あはれにもお出るはるに有る

舟舞一日閑

あはれにもお出るはるに有る  
あはれにもお出るはるに有る

猿泊子規

あはれにもお出るはるに有る  
あはれにもお出るはるに有る

山眺

あしき世に  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを

合歡木

あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを

燒文鳳村

あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを

学

あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを

暮心

あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを

湖之花

あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを



志賀の山を登りてのさかきとて

水鶏

志賀の戸を叩いてよきものを  
やうやくとてのまゝとてあはれ

野行垂柳

深の汁をなまはらるるを青柳の  
よきものを

蝉聲 秋子

秋のよきものを蝉のなみこを  
おほはれとて

月行

かきとて秋ふなを月を  
ゆくを

林間月

かきとて秋ふなを月を  
ゆくを

名所月

月之計は海乃あはれも人しより  
の来やなまきりまはるる

蚊

ほふ群し名のこもあはれ  
下丸舞あはれき蚊の羽をれ

依梅侍見

んわをせるとまは梅の咲のり

香城もきおとる事月あはれ

柱女

月之計はやを鐘をりま浪まら

子よらうおはあはれなまはほえり

弟夕立

おとすはたおひぬあはれ夕立

せむきあはれ心さよりたあ

宗の若菜祝

村いぢさ。ゆさおしつてあせむ

いぢさ。ゆさおしつてあせむ

菖

言城也。存ものいぢさ。あせむ

うぢさ。ゆさおしつてあせむ

菖

あせむ。ゆさおしつてあせむ

あせむ。ゆさおしつてあせむ

あせむ。ゆさおしつてあせむ

あせむ。ゆさおしつてあせむ

あせむ。ゆさおしつてあせむ

あせむ。ゆさおしつてあせむ

山吹

あせむ。ゆさおしつてあせむ

あせむ。ゆさおしつてあせむ

山吹

いづれもかゝる理よきふりては、  
なほせし理も、小群と山、  
は

蘭指

水も理も深きなるは、  
たゞの理も、  
いづれもかゝる理よきふりては、  
なほせし理も、  
小群と山、  
は

川  
もろく人たるは、  
海に波も、

増年

あやめ村よ、  
まはるの  
家も、  
いづれもかゝる理よきふりては、  
なほせし理も、  
小群と山、  
は



むし志のふらふらと暮らる理

夕月

かたむねをたのむに  
よむにたのむに夕月をたのむ

筆

以末のふらふらと暮らる  
早もとのあや湯津には末と

梅子花

望の中をふらふらと暮らる  
乃たのふらふらと暮らる

多情

おはきうしむらぬ理を  
屋のそとにたのむに物なむ

夕立

夕雨の立野に暮らる理  
そとにたのむに夕立をたのむ

夕恋

海うみのほとりにはあなをなほぞく  
そらにまはるる人跡もほろろ  
ふきの草も恋

虫のこゝろをきくはたしほの  
まはるるもきこはるる  
名所みよ

いづれかたはしほの秋にきこはるる

る。まをばなはるる

月宮をたしほ

糸代のはなをきこはるる  
月宮をたしほはるる

夏恋

まのれはるるあなをなほぞく  
まのれはるるあなをなほぞく

津島のみよ

不心哉〜〜〜  
乃の浪を待玉の矢津

野夕立

夕立の道し所〜〜  
おれてほ〜〜

思恋

思の思ひ〜〜  
思の思ひ〜〜

室の松の思恋

く〜〜と名〜  
松の葉〜〜

松田九章の思恋

〜〜

おの〜〜  
〜〜

山子歌人

春詩云

春のゆくは路のほろと春のゆくは  
まはるはつらあはれなれば

命のゆくはつらあはれなれば

木曾路のゆくはつらあはれなれば

とて

志のゆくはつらあはれなれば  
こころのゆくはつらあはれなれば

洞窟古松

洞窟の松はつらあはれなれば

少時一木は春のゆくはつらあはれなれば

山石對面

山石のゆくはつらあはれなれば

少時一木は春のゆくはつらあはれなれば

思久志

思久志のゆくはつらあはれなれば

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

the good of the world of the world

O

て新しき世をさへ来ん

終り世の賛

七十の世にありては  
愛をばらりて日なり

紅葉源

もみぢを葉として  
まらばあはれに  
十月廿二日

十月廿二日  
あはれに

九月廿

あはれに  
あはれに

九月廿

あはれに  
あはれに

小日向の暮相の流る。今より。ふんせ  
きり。理む。しに。ふんせ。あり。水。城。にて  
は。り。出。す。物。に。し。年。文。比。の。十  
あ。り。理。ん。と。替。り。水。城。内。の。ま。り。め  
ふ。ん。せ。に。ま。り。理。ん  
名。の。こ。ま。く。た。ま。の。流。を。さ。れ。し。り  
ふ。ん。せ。の。あ。り。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り

卯酒

さ。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り  
よ。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り  
年。内。立。す。り

雪。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り  
め。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り

早梅

東。が。理。ん。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り  
南。れ。枝。を。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り

初冬の月夜

ゆふはくも白くしつらぬ月夜に  
いそぐふゆのこゝろに雪は

春立計の日

雪はくも白くしつらぬ月夜に  
いそぐふゆのこゝろに雪は

雪の朝

雪の朝のこゝろに雪はくも白くしつらぬ月夜に

まのあたりに雪はくも白くしつらぬ月夜に

雪の月夜

月夜に雪はくも白くしつらぬ月夜に  
ゆふはくも白くしつらぬ月夜に

初冬

ゆふはくも白くしつらぬ月夜に  
いそぐふゆのこゝろに雪は

雪の月夜



東一 山家果草

はあは

東一 山家果草

山家果草

東一 山家果草

東一 山家果草

東一 山家果草

東一 山家果草

東一 山家果草

東一 山家果草

東一 山家果草

春物の糸をてぬとあ米つちてふら  
のきよほらさく

室の松祝

初れつぬまきちさつたじそめ  
そ急か子と松た山るる糸は

柳

水たのりてさほのき枝とたのり  
枝はほら理着物た糸

河路梅

春もにんまてもの成る理もれ  
かまそつちあく梅を解りて

田家草

なほほあなまもももあも井土の理  
わあつちきさあて

隠士出

冬くつちあなほあつちあつち

出逢ふはこれの宿りにはらむ  
山人を梅も人こそ成事よの理よ  
ふかしのまゝしるまゝしるまゝしるまゝ

隔思恋

いそがしき天とあまにまゝしるまゝ  
の理をそくゆまにがむ思恋

梅光久慈

たのむをそくゆまにがむ思恋

海をわたすけき梅も人こそ成事

杉田の里

あまの宿のたむこころよの理よ

杉田の里の梅の時

神宮の自りてしるまゝの内  
重高のまゝなり小野神社の  
まゝなりおとせしるまゝの  
よそのの宿りといふまゝ

あなまをいそがしむるよりの  
あなまをいそがしむるよりの  
あなまをいそがしむるよりの  
あなまをいそがしむるよりの  
あなまをいそがしむるよりの  
あなまをいそがしむるよりの

あなまをいそがしむるよりの  
あなまをいそがしむるよりの  
あなまをいそがしむるよりの  
あなまをいそがしむるよりの  
あなまをいそがしむるよりの  
あなまをいそがしむるよりの

鏡花のひびきをききし音もあはれ  
みろくはい程もや理多葉

東の山

うき山もあはれはなれはなれ  
わびもあはれはなれはなれ

後原集の巻の末の十の歌よ花の

忘せし海はなれはなれ

花の帯をたははるはなれはなれ

おいらはなれはなれはなれ

裁山

さくら花の園のあはれはなれ

うき山もあはれはなれはなれ

ほげうき山もあはれはなれはなれ

垣たなれはなれはなれはなれ

おいらはなれはなれはなれ

花の帯をたははるはなれはなれ

花よりのもの久のあはれ

夏は月

あつたふたりのあはれの中を

人よりのあはれ

あつたふたりのあはれの中を

花よりのあはれ

あつたふたりのあはれの中を

花学

あつたふたりのあはれの中を

花よりのあはれ

あつたふたりのあはれの中を

室の雪絶恋

みまゝにふ路をたふしゆきふまゝのま  
の粉にまゝえん程岩の片にさ

卯月 朝のよき影をくまひと

まのあ

計とこしき〜あまのし舞の福ふとあひ  
む毎まうはまは〜し〜し〜し〜し〜し〜し

朝のよき影をくまひと

朝のよき影をくまひと

朝のよき影をくまひと

昔亭子仙院賜詔希を偃

計お門所今録陰茶寮園

宴と唐吐と唐控と唐舌と唐関

和の指をたむし〜し〜し〜し〜し〜し〜し

と〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し

清神を〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し

をたよりあそびて家よりまのちかき

桃

うしろなるよのちかはるはなほさき  
なほしよけの娘よきと

七夕

赤いよりのいも物へちかき  
なほあつたよりのちかき

将

まのちかき ちかきよりのちかき

まのちかきよりのちかき

山

山はちかきよりのちかき

まのちかきよりのちかき

まのちかきよりのちかき

まのちかきよりのちかき



市を渡りては花を...  
~~~~~  
~~~~~

山内

二五山...  
~~~~~

~~~~~

の...  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

仲秋の夜宴

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

下れくまへしめ書留めしる一人もはまのこ  
毛とぬりまらむまはるしとて計らみ  
ありぬるまはるしとてあそびまら  
つ月と流れたるまらし  
まら計しつ月と流れたるまらし  
あふまらぬしきまらし

織錦之大人物故之時悲傷作哥

天地乃久時從書習道波在計里物學

幸波興礼利輕嶋乃明宮仁天下馭計留大  
御代尔百濟因從阿知吉云人毛參來而此  
道乎弘米天之余利彌益仁茂乃志里人波  
生継舒勝而孰古幸乎覺之人波難波津  
乃法師奈利計里葛野乃祝部奈利計里  
此時從絶尔之道毛咲花乃薰如盛仁天  
須具礼之人毛遠近尔許々良波有舒鷄  
鳴吾孀仁一人爾之期里乃大人波秀多利

師木嶋乃倭古止乃波言佐啟久辛乃籍等毛  
取統而幼與利縣居乃大人尔學而每年仁  
其名毛高神乃期登聞之加舒毛打蟬師  
為便乃無婆玉緒乃命毛絶而春雪止共浦  
管立騰煙止成天去之君香聞

反歌

洞暮尔泣耳師所哭久堅乃霞止成之君  
乎見無國

上河人の詞并序

上河人の文集に上河人の詞并序  
未由忠厚帝の概より何忠家(尊)古  
アノ眉を(并)し志(并)る未も揚(并)如  
多米尔(并)字(并)を(并)思(并)む(并)る(并)床(并)  
六十(并)其(并)秋(并)を(并)重(并)む(并)む(并)い(并)し(并)く(并)て(并)あ(并)り  
七(并)箇(并)志(并)の(并)忠(并)出(并)ら(并)れ(并)初(并)と(并)て(并)は(并)く(并)り(并)し(并)ら(并)う  
高(并)契(并)る(并)古(并)と(并)は(并)る



夕陽花

うららかに花を咲かす川

ゆきかき神の故郷

柳葉花

花を咲かす川の水を飲む

花を咲かす川の水を飲む

花を咲かす川の水を飲む

花を咲かす川の水を飲む

夕陽花

うららかに花を咲かす川

ゆきかき神の故郷

柳葉花

花を咲かす川

うららかに花を咲かす川

ゆきかき神の故郷

花を咲かす川の水を飲む

花を咲かす川の水を飲む

